

平成28年度第7回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要	
開催日時	平成 28 年 11 月 21 日 16 時 ~ 16 時 30 分
開催場所	小山田記念温泉病院 第3会議室
出席委員	毛受、森、北村、原、山中、伊藤、浅野、清水、坂(敬略称、順不同)
新規研究計画の審議	
申請者	伊藤 亜衣
研究名	認知機能低下を認める要支援、要介護者と同居する主介護者間における情報共有ノートの利用による介護負担感の変化
研究内容 要旨	介護負担の評価として、主介護者に対して日本語版Zarit介護負担尺度、うつ評価を用い、それと同時に疾患や身体の痛みの有無、在宅介護開始からの期間、1日の介護時間等について聞き取り調査を行う。要介護者にはMMSE、FIMの評価を行う。そして、主介護者において現在の介護状況や悩み事など他主介護者と情報共有できるノートを使用し、介護負担の変化について明らかにする。
審議結果	承認
意見	特になし。
参考	本研究は大学病院医療情報ネットワーク研究センター臨床試験登録システム(UMIN-CTR)に登録予定である。
新規研究計画の審議	
申請者	島崎 博也
研究名	若年者と高齢者の入浴習慣の違いについて
研究内容 要旨	人が入浴を行う目的として、清潔の保持、リラックス感を得るため、身体を温めるなどの理由がある。また、入浴スタイルも浴槽に浸かったの入浴が主であったが、近年はシャワー浴のみの方も多い。 今回、入浴目的が年齢により違いがあるのかのいうことを、若年者と高齢者を対象として調査し、入浴が健康や活動にどのような影響を及ぼしているのかを検証することを本研究の目的とする。 また、高齢者の入浴事故は現在も後を絶たず、予防が必要であるとされ、入浴は生活習慣の一部であり、適切な入浴指導が大切であるとされています。本研究において、入浴習慣についてアンケートを実施検証することにより、高齢者がより安全に入浴が行える資料とする為、本研究を実施する。
審議結果	差し戻し
意見	書類審議を行い、差し戻しとしました。 研究対象者の選定方針が不明確である。 短期大学の学生の中から50人をどのように選定するのか 小山田記念温泉病院に来院している高齢者とは 患者か、家族か、通所リハビリテーションの利用者か 患者ならば疾患により対象から除外されることはあるのか 多様な来院者の中から50人をどのように選定するのか 短期大学の学生と病院に来院している高齢者の入浴習慣を明らかにすることで、若年者と高齢者の入浴習慣の違いを明らかにできるのか。 社会的に弱い立場にある者(学生、患者など)が意に反して研究に参加を強いられないようにするための配慮が行われているのか。
参考	本研究は他の研究機関と共同して実施される研究であり、すでに共同研究機関である愛知医療学院短期大学において研究倫理専門委員会の審査を受け、実施について適当である旨の意見を得ている。